

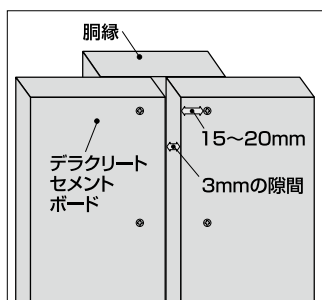
## システムの施工

- 施工フローチャート
- 工程別の使用材料・工具等の一覧
- 施工準備
- ▶ 張り工事
- 左官工事
- 仕上げ工事

### ▶ 張り工事

- デラクリートセメントボード割り付け
- デラクリートセメントボード張り付け
- シーリング工事

## 施工時の大切なお願い



①デラクリートセメントボードの縦ジョイント部は、3mm 程度の隙間を設けてください。

ジョイント部補強時に、隙間に十分な量のベースコートを充填することで、上下左右のボードを一体化するためです。

②デラクリートセメントボード端部から15～20mm にスクリューを打ち、確実に胴縁に留め付けてください。

ボードに細かなヒビ割れが発生しても、ジョイント部補強作業で補修されますので、端部15～20mm にしっかりとスクリューを打ち込んでください。

## デラクリートセメントボード割り付け

## 割り付けのポイント

## 1. 割り付け

- デラクリートセメントボードは、**横張りとし、千鳥状に割り付け**てください。
- ずらし幅は、**胴縁間隔(標準 455mm)以上**とします。
- デラクリートセメントボードの割り付けの**最小幅は 50mm 以上**としてください。

## 2. 縦のジョイント部

- 縦のジョイント部は、**必ず胴縁上で行ってください**。ジョイント部は**3mm 程度**の隙間としてください。

▶アドバイス

ジョイント部の隙間が十分にとれない場合、木造の場合でもスタンダードメッシュを伏せ込んでください。(p.56 参照)

## 3. 横のジョイント部

- 横のジョイント部は**突き付けを基本**としてください。
- ボードの切断面をジョイントする場合には、**3mm 程度**の隙間としてください。

▶アドバイス

右ページの図を参考に施工してください。

## 4. 開口部

- 開口端部をかぎ掛け**に割り付けてください。
- 開口部でクラックの発生する恐れのある場合には、**ガラス繊維テープ**で開口部廻りを補強することをお勧めします。
- 開口部の上下部で、デラクリートセメントボードの割り付け幅を**200mm 以上**としてください。万が一 200mm 未満になる場合には、**両側でジョイント部**を設けて、**ジョイント補強**を確実に行ってください。

▶アドバイス

1階の掃き出し窓や勝手口の、下端外壁のジョイント処理は誘発目地としてください。

## 5. 出隅・入隅部

- 出隅・入隅部ともにデラクリートセメントボードを**突き付けてください**。

▶アドバイス

シーリング部にベースコートまたは仕上げ材を施すとクラックの原因になります。

## 6. 伸縮目地 (コントロールジョイント)

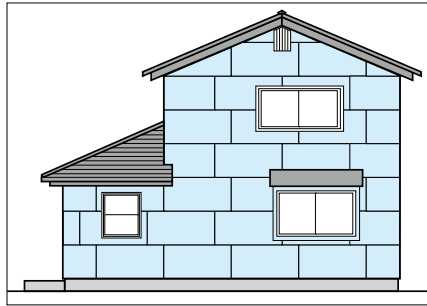
- 伸縮目地は、デラクリートセメントボードを**10mm 程度**の目透かし張りとしシーリング処理してください。
- 伸縮目地を設ける箇所は下記のとおりです。

## 木造の場合

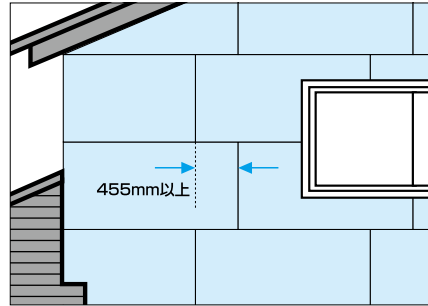
- ①異種壁面等の境目
- ②塗り仕上げでは / 6.0m 毎
- ③タイル等の張り仕上げでは / 4.9m 毎
- ④3階建ての場合は / 2階と3階の階床部分

## 鉄骨造の場合

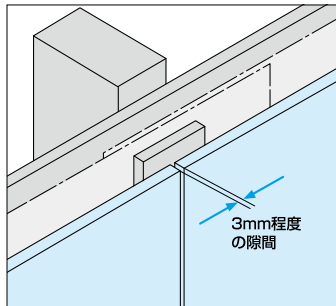
- ①異種壁面等の境目
- ②各階床部分 (胴縁継ぎレベル部)
- ③塗り仕上げでは / 6.0m 毎
- ④タイル等の張り仕上げでは / 4.9m 毎



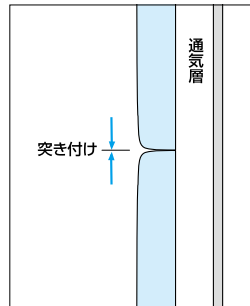
●デラクリートセメントボード割り付け



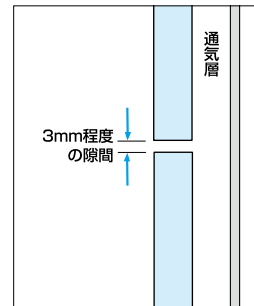
●デラクリートセメントボードのずらし幅



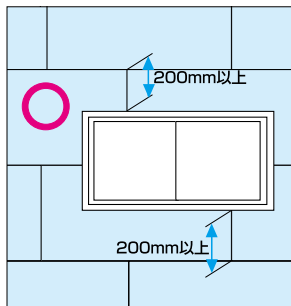
●縦のジョイント部の隙間



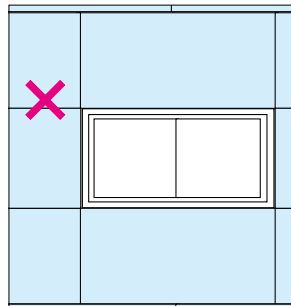
●横のジョイント部の隙間  
(ボードを切断しない場合)



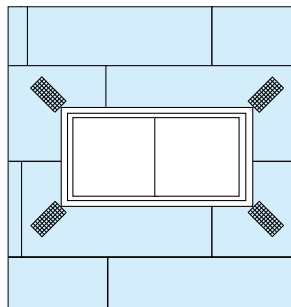
●横のジョイント部の隙間  
(ボードを切断する場合)



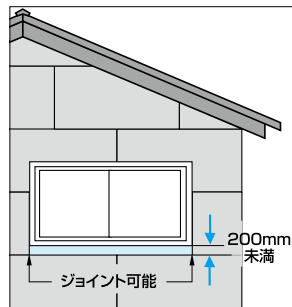
●開口部廻り



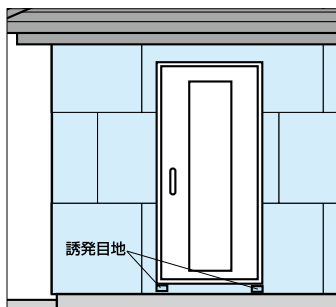
●開口部廻り



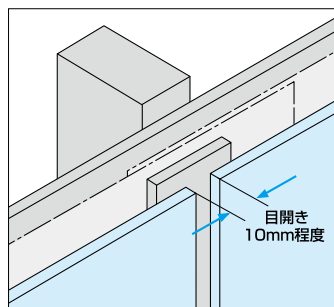
●開口部補強例  
ガラス繊維テープを下地調整時に開口部廻り四隅に張ると補強効果が得られます。



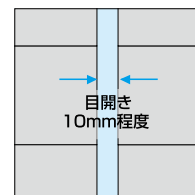
●開口部廻りのジョイント部の緩和



●勝手口等の誘発目地



●伸縮目地部



## デラクリートセメントボード張り付け

デラクリートセメントボードシステムには**防水性能がありません**。防水工事が確実にされているか、必ず確認してください。

## 使用材料

- デラクリートセメントボード
- ウッドスクリュー(木下地用)
- スチールスクリュー(鉄骨下地用)

## 施工のポイント

## 1. デラクリートセメントボードの表裏

- ボードは**印字のある粗い面が表面**です。表面がベースコート塗り面・仕上げ面になります。

## 2. 張り方

- 横張り千鳥状に、土台廻り下方より上方へ張り上げてください。
- 切断前に、ボードを軽くたわませ、面内に無数のマイクロクラックを発生させておくと、**クラック抑制に効果**があります。
- ボードのジョイント部については、前項【デラクリートセメントボード割り付け(P39)】の縦・横のジョイント部を参照ください。
- ボードを仮留めする際は、2箇所程度とし、ボードに割れ等の影響がないようにしてください。

アドバイス

張る前にボードの上面レベルを合わせて墨打ちを行うと、施工が容易になります。通気構法による通気口の確保や、土台水切りの種類により墨打ちのレベルが変わりますので注意してください。

## 3. 切り出し

- 切断には「集塵機能付き電動ノコギリ」を使用してください。刃はダイヤモンドチップを推奨します。
- 切断する際の最小切り出し幅は、基本的に**50mm以上**としてください。

アドバイス

50mmを下回る場合は、ボードを留め付ける前にあらかじめ先穴をあけてから留め付けてください。

## 4. 留め付け

- 留め付けには、必ず専用の木下地用「ウッドスクリュー」、鉄骨下地用「スチールスクリュー」を使用してください。
- 留め付けには、「**インパクト機能付電動ドライバー**」をご使用ください。
- スクリューは、ボードの**端部から15~20mmに留め付けて**ください。(伸縮目地部は20~30mmとし、5.伸縮目地を参照ください。)
- スクリューは、下地胴縁に沿って**230mm間隔以下に留め付けて**ください。
- スクリュー留め付け本数は、胴縁間隔455mmの場合、ボード1枚あたり25本(縦5本×5列)が標準です。
- 留め付ける際には、**ボード面とスクリュー頭が面一**となるよう締め付けてください。
- スクリュー頭がボード面にめり込んだり、スクリュー周辺が破損した場合は、その近辺(15mm程度)に新たにスクリューを留め付けてください。

アドバイス

電動ドライバーのトルク不足は、ボードと胴縁間に浮きが発生し、クラックの原因となります。

アドバイス

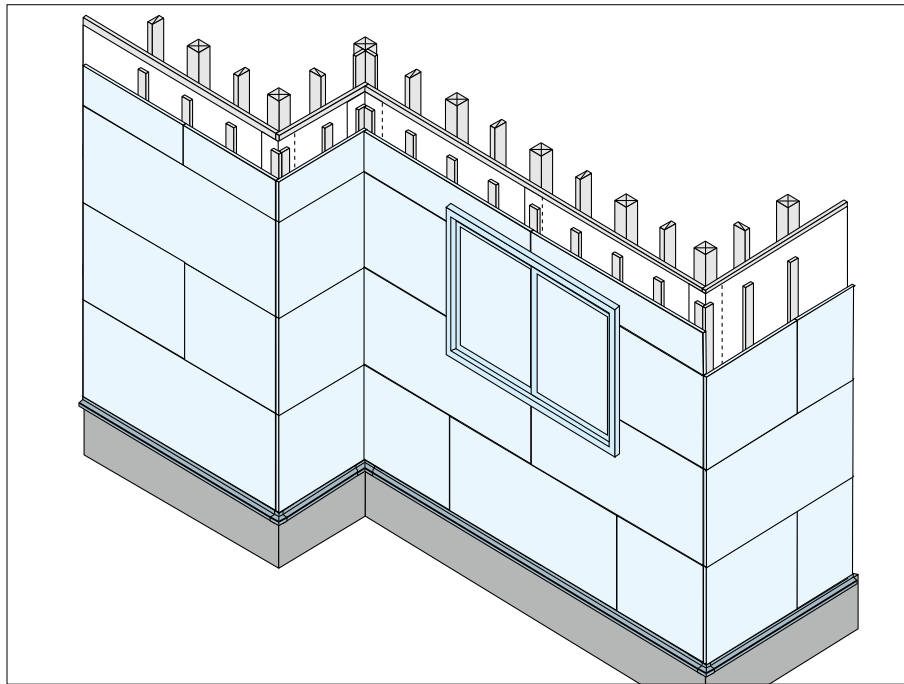
端部より離れた位置で留め付けると、ジョイント部の暴れやクラックの原因となります。

アドバイス

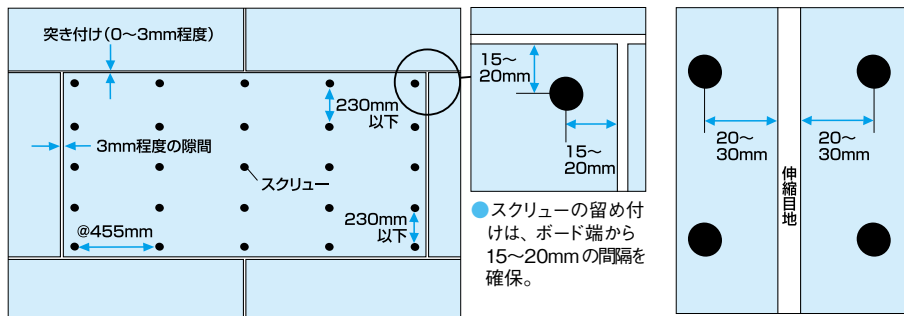
スクリューを抜いた穴やボード面のクラックなどは、ベースコート塗りで補修されるので心配ありません。

## 5. 伸縮目地

- 伸縮目地の設置に関しては、前項【デラクリートセメントボード割り付け(P39)】の伸縮目地部を参照ください。
- 伸縮目地部のスクリュー**は、あらかじめ先穴を開けるなどして、ボードの**端部から20~30mmに留め付けて**ください。

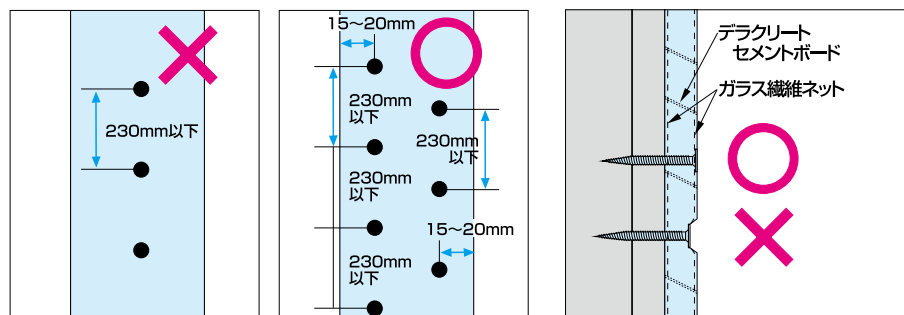


●張り付け図(木造通気構法)



●留め付け用スクリーアの間隔(標準)

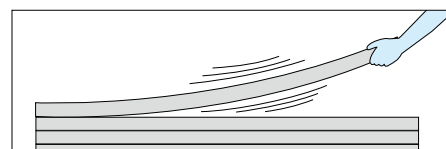
●伸縮目地部のスクリーアの留め付け位置  
ボード端部から20~30mmの間隔を確保。



●幅狭のボードを図のように留め付けるのは、クラックの原因となりますのでやめてください。

●幅狭のボード留め付け方法は各列@230mm以下に千鳥状としてください。

●スクリーア頭の沈み込み注意。



●切断前にボードの端をおこして、軽くたわませて、マイクロクラックを発生させておく。

## 曲面壁のポイント

- 曲面部の適用曲げ半径は、**胴縁面で2,400mm以上**です。
- デラクリートセメントボードの**縦横比を1:2換算として張り付け**ます。
- 切断前に、デラクリートセメントボードを**曲げ方向に合わせて軽くたわませてから切断**すると、曲面に馴染みやすくなり、張り付けが楽になります。
- スクリーウの留め付け間隔は以下のようにしてください。

曲げ半径 (mm)	スクリーウ留め付け間隔 (mm)	
	ボード外周部	ボード中央部
6,000以上	230以下	230以下
2,400~6,000	100以下	150以下
2,400未満	施工は推奨できません。	

## 出隅・入隅部のポイント

- 出隅部、入隅部ともに、隙間をあげずにデラクリートセメントボードを突き付けてください。隙間がある場合は、ジョイント補強と【ジョイント部の補強 (P53)】と同様の処理をしてください。
- 入隅部の**クラックが懸念される場合は、伸縮目地として透かし張り**をしてください。

▶ **アドバイス**  
入隅にはボードを受けるように、市販の板金を挿入することを推奨します。

## 開口部廻り・軒天部のポイント

- 開口部廻り(サッシ廻り等)は、デラクリートセメントボード張り付け後にシーリングを行うため、**5~8mm程度**の隙間を確保してください。
- 軒天とデラクリートセメントボードの取り合いは、サッシ廻りと同様に、**5~8mm程度**の隙間を確保してください。

▶ **アドバイス**  
軒天とボードの隙間にシーリングを打つ場合は、板金等を回しておくとしーリング材がはみ出して通気層を塞ぐのを防げます。

## 土台廻り・下屋壁あたりのポイント

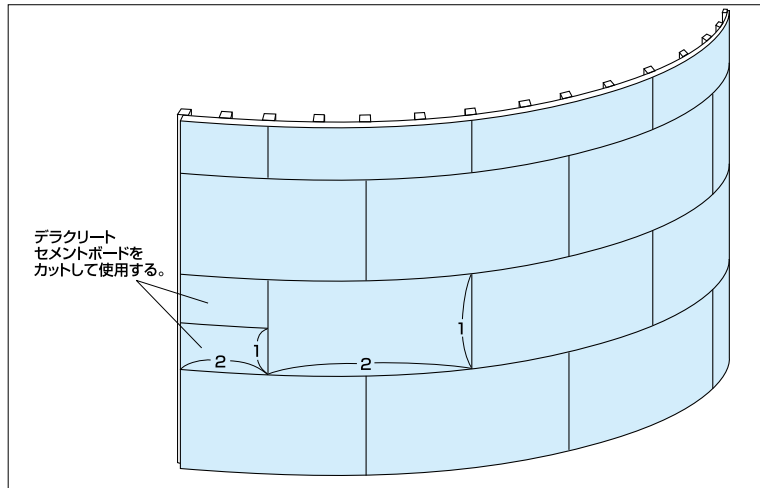
- デラクリートセメントボードの張り始めの下端部は、仕様により位置が異なるため、**図面・仕様書をよく確認**してください。
- 通気構法の場合、通常、水切り板金と**10mm程度**の隙間をあけて通気用の給排気層を確保します。
- 下屋壁あたりも同様です。

▶ **アドバイス**  
仕様により異なる場合があるため、施工前に事前に図面・仕様書を確認した後、現場責任者の指示にしたがってください。

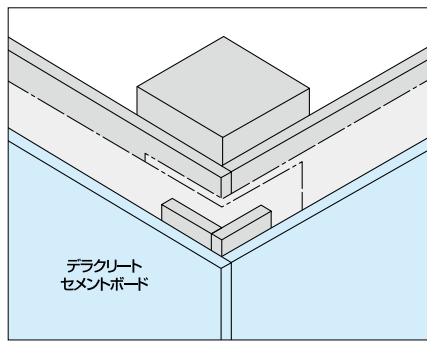
## 直張り(バルコニー等)のポイント

- 胴縁を使用しないでデラクリートセメントボードを**直張りする場合は**、留め付け部からの雨水等の侵入を考慮して、防水シートに透湿防水シートを使用せずに、**アスファルトフェルト等を使用**してください。
- バルコニー袖壁の内側等で胴縁を使用しない場合は、防水シートの上から直接ボードを留め付けてください。
- スクリーウが柱材に確実に留め付けられるように、柱材の取り付け位置には十分に注意してください。

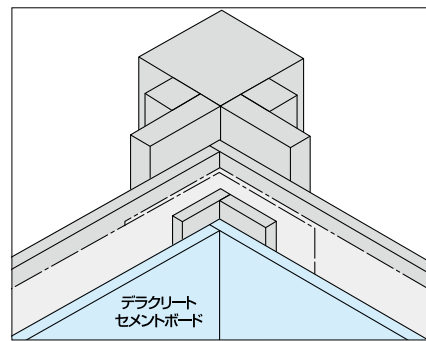
▶ **アドバイス**  
バルコニー袖壁の内側等は仕様異なります。図面・仕様書等で確認してください。納まり、施工方法は現場責任者に確認してください。



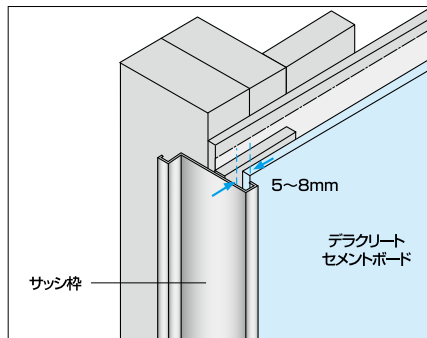
●曲線部



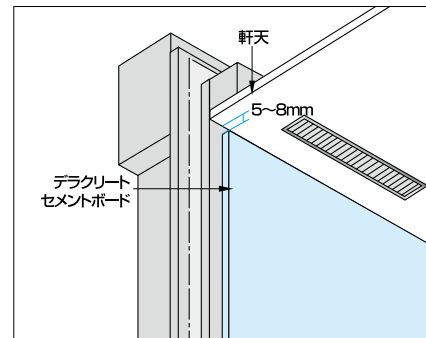
●出隅部



●入隅部



●開口部廻り



●軒天部



### 注意事項

- デラクリートセメントボードの不陸は、1mm 以内になるようにスパーサー等で調整してください。
- 不陸が大きな場合、ベースコート(下地調整塗り)を数回塗り重ねる必要が生じます。
- デラクリートセメントボードは製品の構造上、ボード表面下に埋め込まれたガラス繊維メッシュが重要です。**ガラス繊維メッシュが破損したものは、使用しないでください。**

## シーリング工事

デラクリートセメントボードシステムには**防水性能がありません**。デラクリートと取り合うシーリングは異種材料との縁切りと遮水のためです。

## 推奨材料

低モジュラス：50%モジュラスが  $0.25\text{N} / \text{mm}^2$  以下のシーリング材

## 施工のポイント

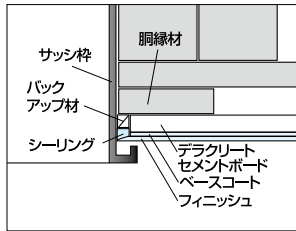
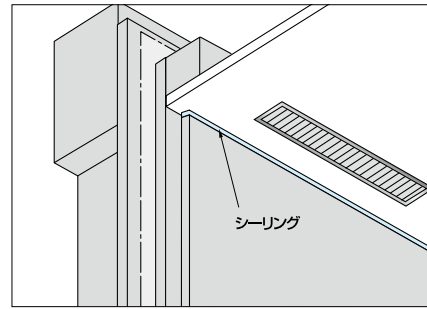
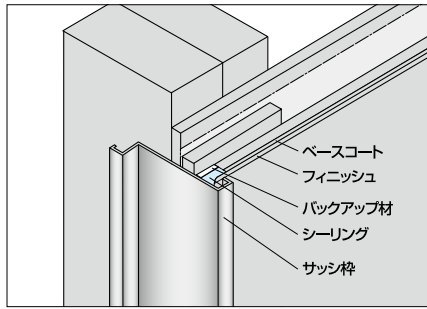
- 建築用シーリング材（市販品）で、一成分系の低モジュラス型・耐汚染性タイプの変成シリコン系、ポリサルファイド系およびポリウレタン系の材料（JIS A5758 適合品）などを、品質を確認した上で使用してください。
- シーリングはサッシ廻り、設備管など貫通開口部廻り、軒天と壁の取り合い部、その他**異種材料との取り合い部**に打設します。
- バックアップ材は、発泡ポリスチレン製など、シーリングの性能を低下させないものとしてください。
- デラクリートへのプライマーは、モルタル・コンクリート用を使用してください。



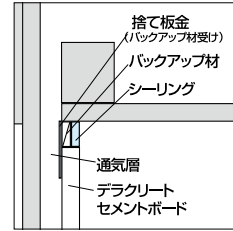
## 注意事項

- デラクリートセメントボードの**ジョイント補強部**には、クラックの原因となりますので、絶対に**シーリングを打たない**でください。
- シーリングは、ボードの小口面が必ず隠れるようにしてください。
- 伸縮目地を設ける場合には、バックアップ材に替えて、**金属製ハット型ジョイナー**をご使用ください。

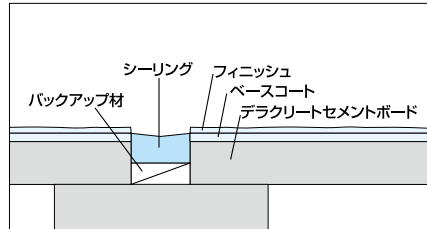




●開口部廻り

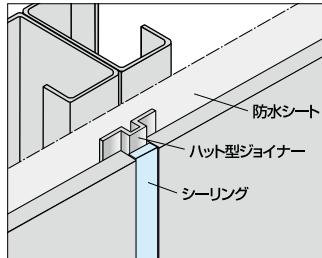


●軒天井部

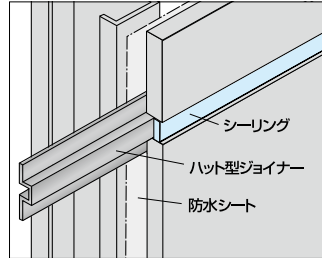


●フィニッシュ仕上げの場合  
伸縮目地のシーリング打ち

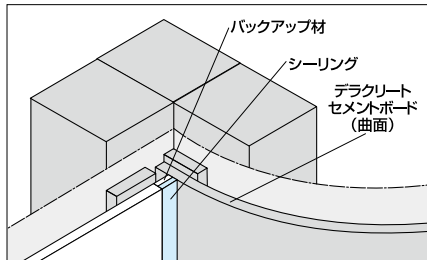
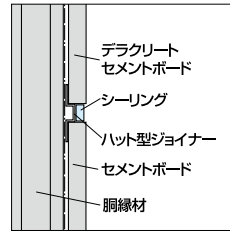
〈伸縮目地部の納まり図例〉



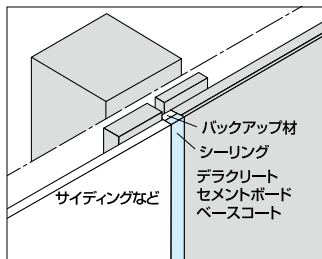
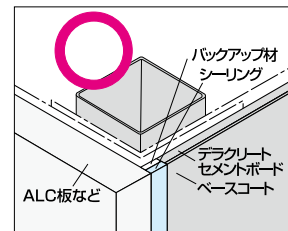
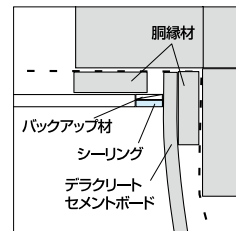
●伸縮目地部／縦目地



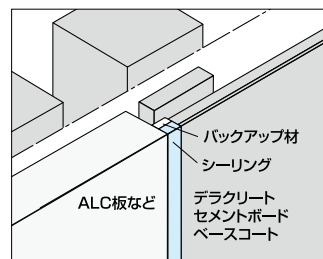
●伸縮目地部／横目地



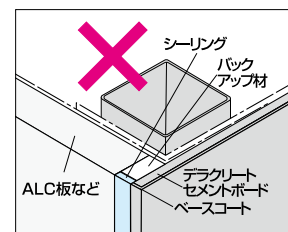
●曲線壁の端納め



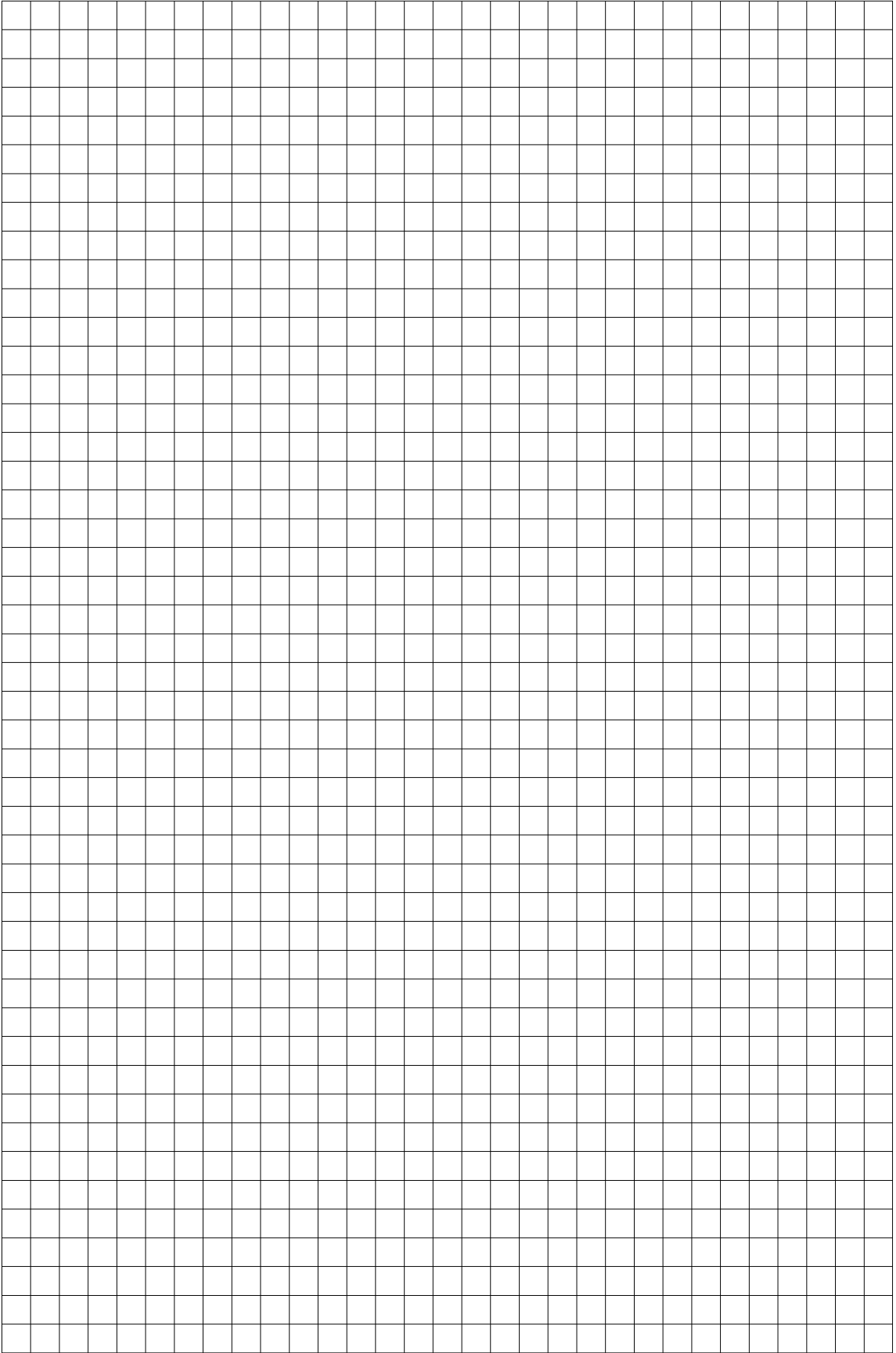
●異素材との組合せ①



●異素材との組合せ②



●ボードの小口面は仕上げ面に出さないでください。



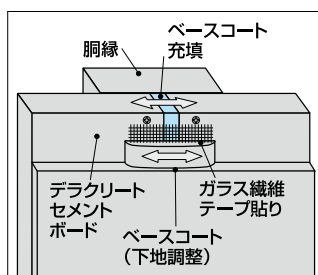
## システムの施工

- 施工フローチャート
- 工程別の使用材料・工具等の一覧
- 施工準備
- 張り工事
- ▶ 左官工事
- 仕上げ工事

### ▶ 左官工事

- ベースコートの混練
- 専用役物の取り付け
- ジョイント部（目地部）の補強
- ベースコート塗り（下地調整）
- スタンダードメッシュの全面伏せ込み

## 施工時の大切なお願い



③デラクリートセメントボードのジョイント部の隙間には、ガラス繊維テープを貼る前にベースコートを十分に充填してください。

ジョイント部にベースコートを充填してガラス繊維テープで補強することで、上下左右のボードに圧縮力や引張り力を伝え、壁面全体にマイクロクラックを均質に発生させるための大切な工程です。

## ベースコートの混練

## 使用材料

製品名	荷姿	標準塗布量／塗り厚
吉野 ファイバーベースコート	1袋 (20kg)	4kg/m <sup>2</sup> ≒3mm
		7kg/m <sup>2</sup> ≒5mm

※練り水量は、ベースコート1袋(20kg)当たり3.6～4リットル

アドバイス

塗り厚は、防耐火認定により決められています。【(P.18)】でご確認ください。

## 施工のポイント

## 1. 取り扱い

- 施工時および塗布後の養生時の気温・気象条件に注意して、降雨・降雪を避けてください。
- ベースコートが乾燥する前に、含まれている水分が凍結すると、硬化が阻害されて強度が著しく低下しますので、**気温が5℃以下**での施工を避けてください。
- 可使時間は**気温20℃で約60分程度**です。可使時間を超過したものは使用しないでください。
- 養生時に凍結の懸念がある場合は、ジェットヒーター等で凍結を防いでください。ジェットヒーターによる養生時は、急激な乾燥収縮を防ぐ為に直接壁面へ熱風を当てないようにしてください。

アドバイス

規定の範囲内であっても、水量が多い場合ダレが生じる可能性があります。一度に合わせないで水を徐々に加えるように混練してください。

## 2. ベースコートの混練

- 練り水量は、**ベースコート1袋(20kg)当たり3.6～4リットル**の範囲内で調整してください。
- 練り水は、清水を使用してください。置き水や溜まり水は使用しないでください。
- 混練り時間は、ハンドミキサーで**3～4分**です。混練り不足は品質が安定せず、クラックの原因になります。
- 空気を巻き込まない**ように混練してください。
- 必ず塗る直前に再度軽く均一に練り直**してください。
- 混練した材料への足し練りはしないでください。

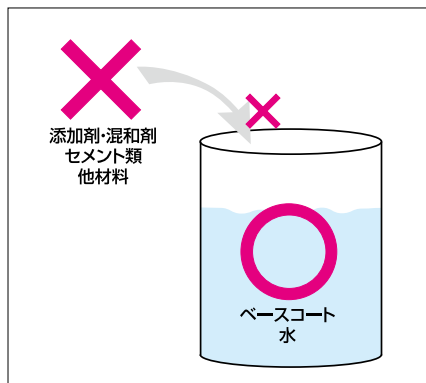
アドバイス

規定量より少ない水の中へ、ベースコートを徐々に入れながら、ダマにならないようにハンドミキサーで攪拌し、規定範囲内の水量で軟度調整して練りあげてください。



## 注意事項

- 取り扱い時には、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の保護具を必ず着用してください。
- 練り水量は規定の範囲内で調整してください。
- ベースコートは、プレミックスモルタルです。**水以外に、添加剤、セメントおよびその他の材料は一切混ぜない**でください。
- ベースコートは、通常のモルタルと比較して硬化が早く接着性が高いので、作業効率に合わせた混練り量としてください。
- ベースコートの付着した器具・工具類は早めに水洗いしてください。
- 炎天下等で保管された高温のベースコートや置き水、溜まり水は、硬化を著しく促進しますので絶対に使用しないでください。



●水以外の混入は厳禁



●ハンドミキサーで混練

## 専用役物の取り付け

## 使用材料

吉野ファイバーベースコート

入隅部		ガラス繊維テープ
出隅部	塗り仕上げ	ガラス繊維テープ またはコーナービートとガラス繊維テープ
	張り仕上げ	ガラス繊維テープ
	併用仕上げ	ガラス繊維テープ
ボード下端		L型トリム、またはJ型トリム※
伸縮目地		役物の取り付けはありません。

※デラクリートセメントボードを直張りする場合など、ボード裏面に隙間がない時は、L型トリムを使用します。

## 施工のポイント

## 1. ベースコートの塗布

- ベースコートは塗る直前に、再度軽く均一に練り直してください。
- 専用役物は、必ずデラクリートベースコートで取り付けてください。
- 施工部位の寸法に合わせて、専用役物を前もってカッターや金切りバサミで切断してください。

アドバイス

あらかじめ【ベースコートの混練 (P.49)】を熟読し、ベースコートを練ってください。

## 2. 取り付け手順

- デラクリートセメントボードの暴れがないか確認してください。
- 下端にトリムを取り付けてから、出隅・入隅部をガラス繊維テープで補強してください。
- 出隅部にコーナービートを使用する場合は、コーナービート、下端用のトリムの順番で取り付けてください。

アドバイス

出隅部のコーナービートは、下端から貼り上げてください。デラクリートガラス繊維テープでの代用も可能です。

## 3. 取り付け方法

- 混練したベースコートを、施工部位に十分に均一に塗り付けてください。
- コーナービートとトリムの取り合いは、隙間がないように納めてください。
- 切断した役物を押さえ付けるようにし、役物のパンチ穴からベースコートのノロが上がってくるようにして取り付けてください。
- コーナービートの両側をガラス繊維テープで補強してください。
- 役物をベースコートで十分伏せ込まない場合や、役物の裏面に空気層ができた場合、クラックや剥離の原因となりますので注意してください。

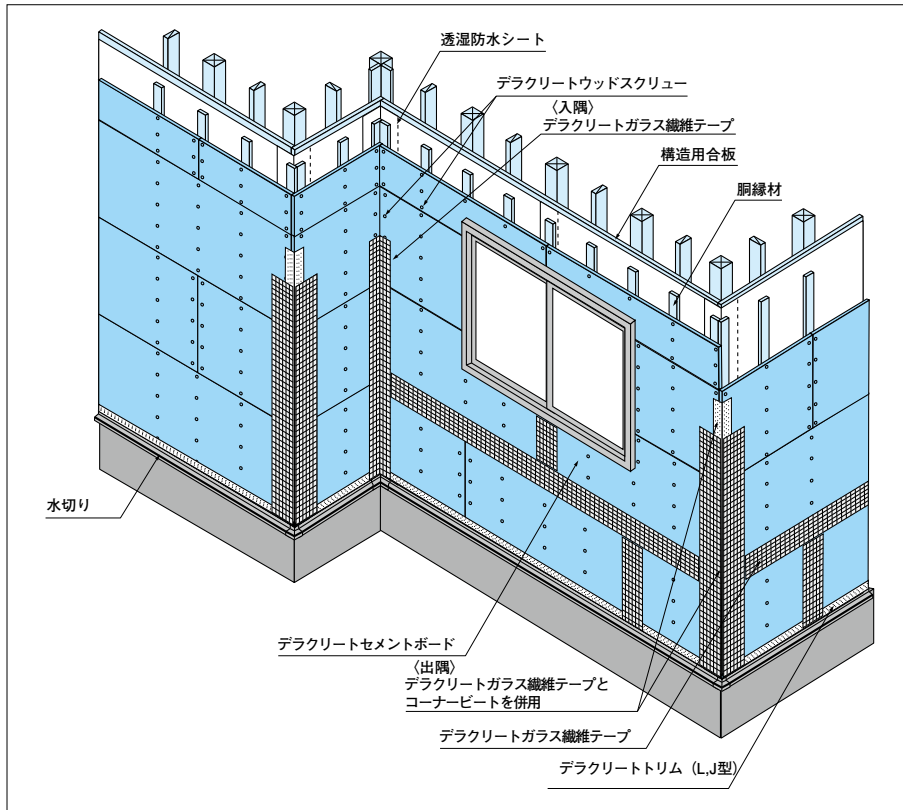
アドバイス

役物をタッカー等で仮留めした後、モルタルを塗り付けると完成後にクラックや剥離の原因となりますので、絶対にやめてください。

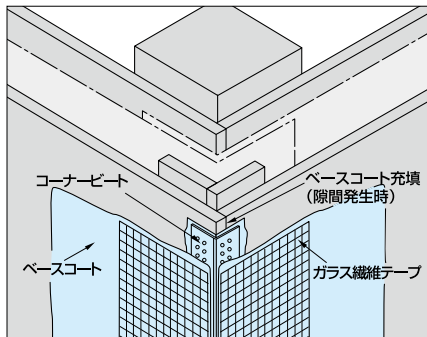


## 注意事項

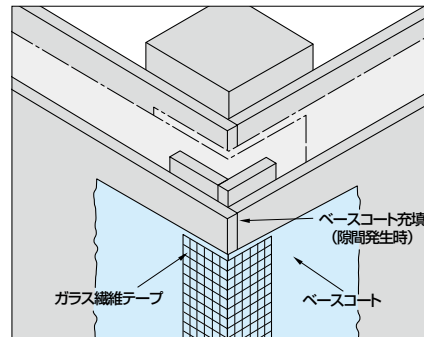
- ベースコートは、皮膚に付着すると肌荒れや、炎症をおこす場合があります。取り扱いの際は、手袋等の保護具をご使用ください。
- 垂直・水平に注意して、できるだけボードに密着するように取り付けてください。
- ベースコートが、他の部材（サッシ、板金、屋根材等）に付着して硬化すると、取れなくなる場合がありますので、マスキング等の養生は確実に行ってください。
- トリムにはL型・J型があり、どちらを使用しても構いません。ただし、ボード最下段を水切り板金に接するように施工する場合には、トリム先端部に爪があるJ型トリムを使用することはできません。



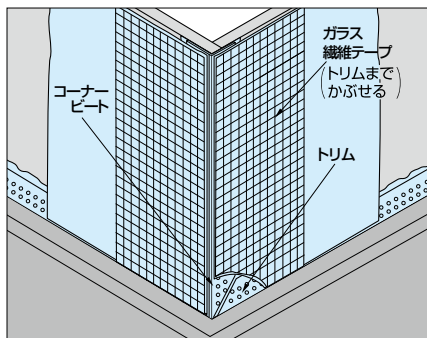
● 役物の取り付けとジョイント補強



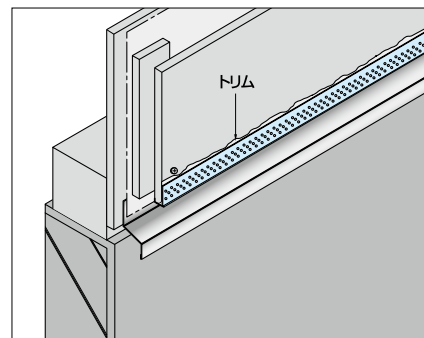
● 出隅部／コーナービートの取り付け (塗り仕上げの場合)



● 出隅部／ガラス繊維テープの取り付け (張り仕上げの場合)



● コーナービートとトリムの取り付け



● ボード下端／トリムの取り付け

# ジョイント部（目地部）の補強

デラクリートセメントボードのジョイント部の補強は、システムを形成する上で、最も重要な工程です。特長であるクラック抑制のためにも、作業工程を遵守して確実な施工を行ってください。

## 使用材料

吉野ファイバーベースコート  
ガラス繊維テープ

## 施工のポイント

### 1. ジョイント部のベースコート充填

- ボードのジョイント部（縦横方向とも）で、ベースコートがしっかり詰まるようにコテ圧をかけて押し込みながら十分充填してください。このとき、コテの先をジョイント部に差し込みボードの切り口にこすり付けるようにするとより充填しやすくなります。これにより、ジョイント部の補強効果が発揮されます。

▶アドバイス

あらかじめ【ベースコートの混練 (P.49)】を熟読し、ベースコートを練ってください。



## 注意事項

- ガラス繊維テープを仮留めしながらベースコートを充填すると、充填不良を起こしてクラックの原因となりますのでやめてください。

### 2. ガラス繊維テープ貼り

- ガラス繊維テープ貼りは、ジョイント部に充填したベースコートの可  
使時間内に行ってください。
- ベースコートの塗り幅は、300mm 以上として、ジョイント部に沿って帯状に連続してベースコートをしごくように薄く塗り付けてください。
- ガラス繊維テープは、シワや浮きが発生しないようにコテ圧をかけながらしごき、下地調整後の不陸をなくすために、できるだけ薄くボード面と面一になるように貼ってください。

▶アドバイス

平滑な柄（テクスチャー）で塗り仕上げをする場合は、塗り幅を500mm程度に広げてガラス繊維テープを貼ると、ジョイント部の不陸が目立ちにくくなります。

▶アドバイス

シワや浮きがなければ、ガラス繊維テープが見えていても問題はありません。

### 3. 養生

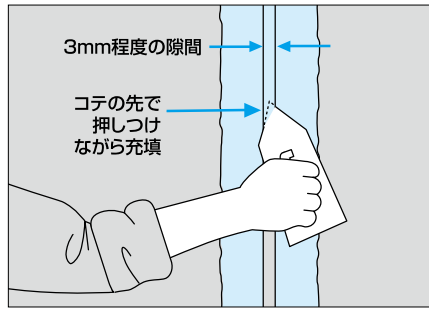
- 養生は1日以上とり、硬化していることを確認してから次の工程に入ってください。



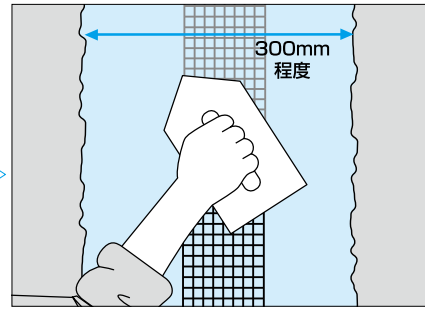
## 注意事項

- ベースコートは、皮膚に付着すると肌荒れや炎症をおこす場合があります。取り扱いの際は、手袋等の保護具をご使用ください。
- ボードのジョイント補強部には、絶対にシーリングを打たないでください。
- ガラス繊維テープの重ね貼りは、決して行わないでください。重ね貼りをすると、剥離や不陸の原因になります。
- ジョイント補強後は、十分な養生を行い、硬化を確認してから次の工程に進んでください。ジョイント部のベースコート乾燥収縮によるひび割れを十分発生させてから次の工程に進むと効果的です。
- ベースコートが他の部材（サッシ、板金、屋根材等）に付着して硬化すると取れなくなる場合がありますので、マスキングなどの養生は確実に行ってください。

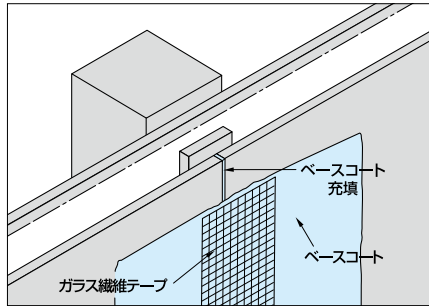




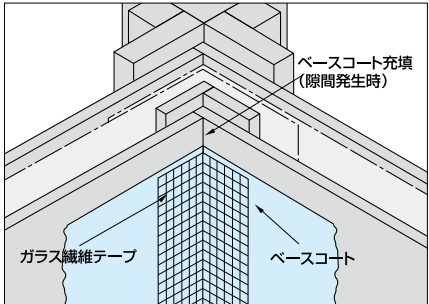
①ジョイント部のベースコート充填  
コテの先を目地部に差し込み  
ボードの切り口にこすりつけます。



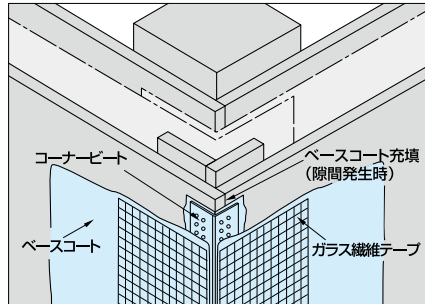
②ガラス繊維テープ貼り  
通常仕上げの場合はベースコートの塗り幅を  
300mm程度とする。  
より平滑な柄仕上げの場合は塗り幅を  
500mm程度とする。



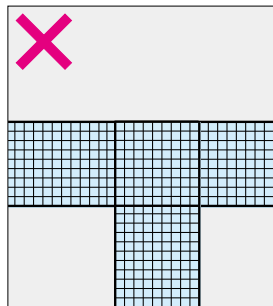
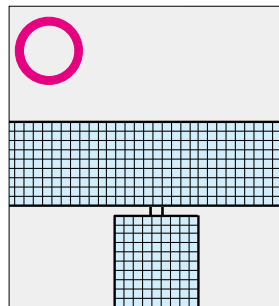
③ジョイント部のガラス繊維補強



●入隅部の補強



●出隅部の補強



●ガラス繊維テープは重ね貼り厳禁

# ベースコート塗り（下地調整）

## 使用材料

吉野ファイバーベースコート

## 施工のポイント

### 1. 塗り作業

- ジョイント補強部と役物取り付け部が、十分に硬化していることを確認してください。
- コテ圧をかけて、まずジョイント補強部以外をしごき塗りし、追っかけて全体を塗り厚3～5mm程度になるように平らに塗り付けてください。しごき塗りをしないで、ジョイント補強部も一緒に塗ることは避けてください。
- ベースコート面の仕上がりは、仕上げに応じた平面精度で全面を金コテ平滑押さえとしてください。（ベースコート面は、なし目となります。）

アドバイス

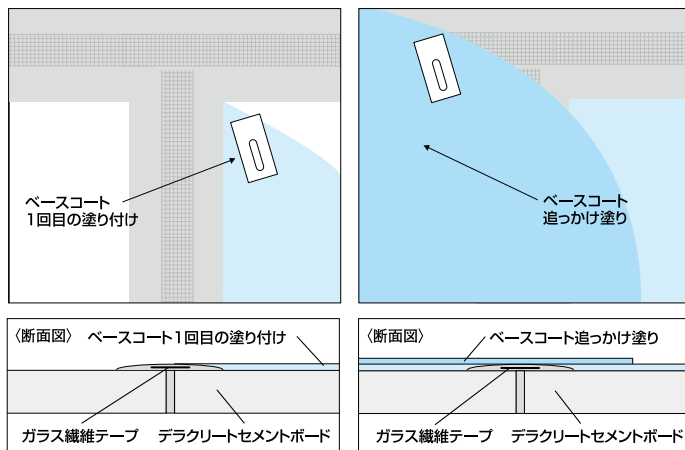
あらかじめ【ベースコートの混練（P.49）】を熟読し、ベースコートを練ってください。

アドバイス

塗り厚は、防耐火認定により決められています。【(P.18)】でご確認ください。

アドバイス

さらに平滑面が必要な場合、市販のセメント系フィラー材（下地調整材）で再調整してください。（フィラー材とベースコートの接着性などをあらかじめ確認のうえご使用ください。）



● ジョイント部以外のしごき塗り

● 全体の追っかけ塗り

### 2. 養生

- 養生は塗り厚3mmの場合は通常期2日以上、冬場3日以上とってください。塗り厚4～5mmの場合は通常期3日以上、冬場5日以上とってください。（気象条件および地域特性等により養生期間が前後する場合があります。）



## 注意事項

- ベースコートは、皮膚に付着すると肌荒れや炎症をおこす場合があります。取り扱いの際は、手袋等の保護具をご使用ください。
- デラクリートセメントボードの乾燥が著しい場合は、霧吹き等により軽く散水してください。
- 添加剤等を混ぜないでください。
- 降雨直後の施工でボード表面が濡れている場合は、乾燥させてから施工してください。接着不良等の不具合が発生する恐れがあります。
- ベースコートが他の部材（サッシ、板金、屋根材等）に付着して硬化すると、取れなくなる場合や変色させる事がありますので、マスキング等の養生は確実に行ってください。
- ベースコートの塗り厚は最大で6mmです。この場合は2～3回塗りとなります。

## スタンダードメッシュ全面伏せ込み

## 使用材料

吉野ファイバーベースコート、スタンダードメッシュ

## 施工の適用

鉄骨造の場合、スタンダードメッシュの伏せ込みは、仕上げの種類にかかわらず必要となります。また、木造でジョイント部の隙間が十分にとれない場合、スタンダードメッシュの伏せ込みが必要となります。(スタンダードメッシュの使用については、認定条件をご確認ください。)

## 施工のポイント

## 1. 下準備

- ジョイント補強部と役物取り付け部が、十分に硬化していることを確認してください。

アドバイス

役物の取り付け、ジョイント部(目地部)のベースコート充填とガラス繊維テープでの補強が完了し(P.51、53)、役物取り付け部とジョイント補強部が十分に硬化していることを確認してください。

## 2. ベースコートの下塗り

- コテ圧をかけて、まずジョイント補強部以外をしごき塗りし、追っかけて全体を塗り厚2~3mm程度になるように平らに塗り付けてください。
- しごき塗りをしないで、ジョイント補強部も一緒に塗ることは避けてください。

アドバイス

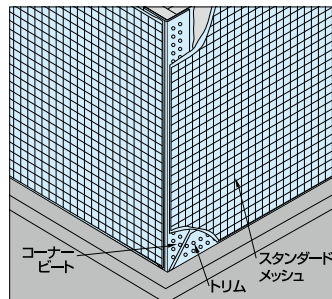
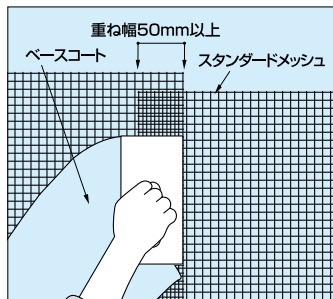
あらかじめ【ベースコートの混練(P.49)]を熟読し、ベースコートを練ってください。

## 3. スタンダードメッシュの伏せ込み

- コテをスタンダードメッシュの中心部から端側へ伸ばし、メッシュがシワにならないで、平滑に伏せ込まれるようにしてください。
- スタンダードメッシュの四方は少なくとも50mm重ねてください。

アドバイス

ロール状のスタンダードメッシュを、伏せ込みやすい長さあらかじめカットしてください。



- スタンダードメッシュの伏せ込み
- 出隅部のコーナービート、トリムとスタンダードメッシュの伏せ込み

アドバイス

スタンダードメッシュは壁全体に応力を分散させるために、四方を必ず重ねてください。

アドバイス

スタンダードメッシュはトリムまでかぶせてください。

## 4. ベースコート上塗り

- 下塗りのベースコートが硬化する前に1~2mm厚程度に上塗りします。スタンダードメッシュが見えないように、全面を塗り付けてください。
- ベースコート面の仕上りは、金コテ平滑押さえとしてください。
- ベースコートの総塗り厚は、5mm程度になるようにしてください。

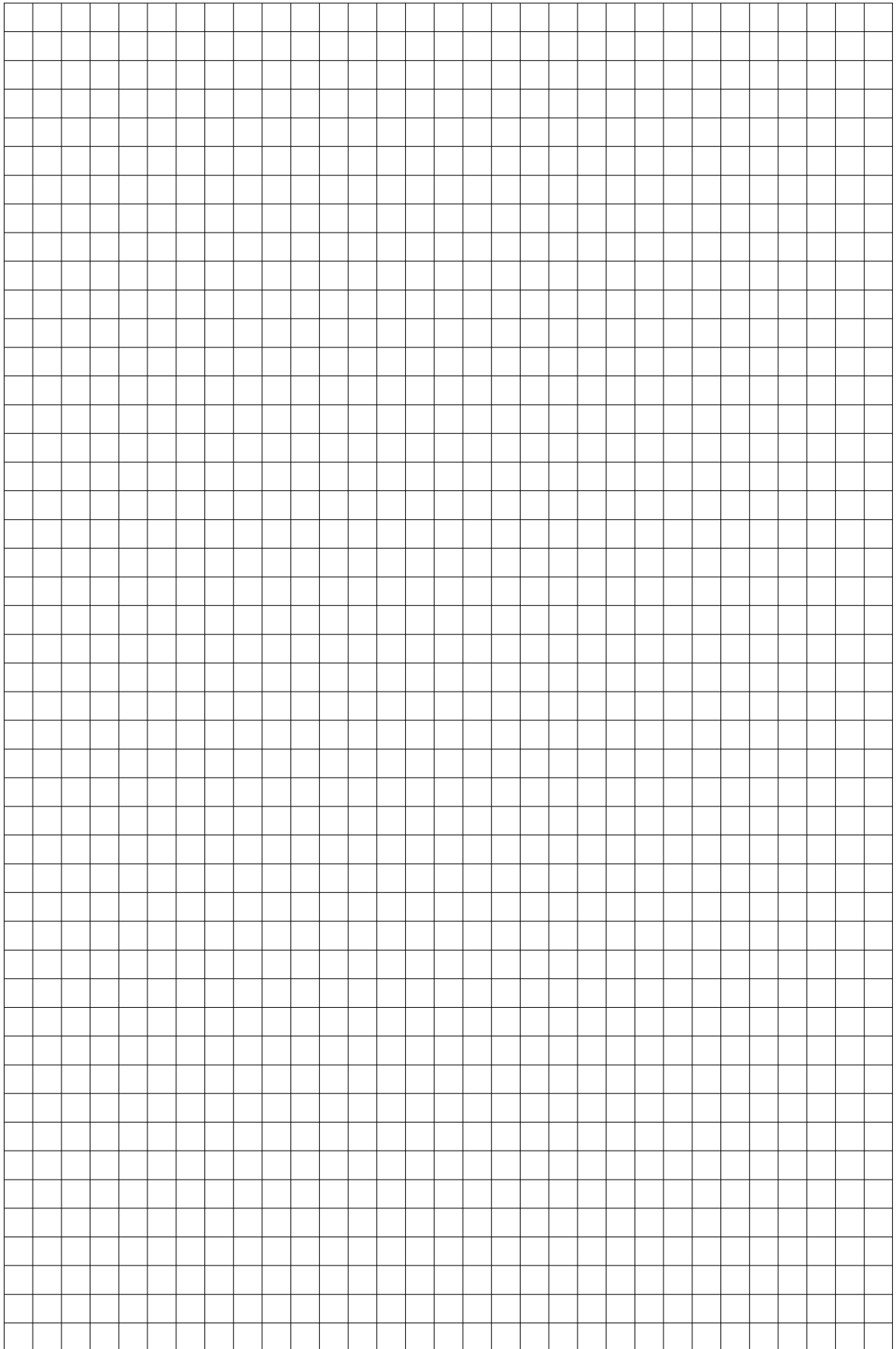
## 5. 養生

- 養生は通常期で3日以上、冬場で5日以上とってください。(気象条件および地域特性等により養生期間が前後する場合があります。)



## 注意事項

- 下塗りのベースコートの可使用時間内に上塗りまで行ってください。
- ベースコートを塗布する際は、P55の注意事項をお読みのうえ、施工してください。



## システムの施工

- 施工フローチャート
- 工程別の使用材料・工具等の一覧
- 施工準備
- 張り工事
- 左官工事
- ▶ 仕上げ工事

### ▶ 仕上げ工事

- テクスチャードフィニッシュ仕上げ
- フラットフィニッシュ仕上げ

## 施工時の大切なお願い

- ④ 当社仕上げ材（吉野テクスチャードフィニッシュ、吉野フラットフィニッシュ）をご使用の場合は、アイカ工業製シーラー JS-560 をお使いください。また、他社メーカーの仕上げ材をお使いの場合は、各メーカーの専用シーラーを用いてください。

シーラー塗布を必ず行ってください。ベースコートと仕上げ材を確実に密着させるための大切な工程です。

# テクスチャードフィニッシュ仕上げ

施工前に必ずコンパネ等で試し塗りを行って、仕上がり、乾燥性を確認してください。

## 使用材料

吉野テクスチャードフィニッシュ

種類(テクスチャー)	荷姿	標準塗布量	色数
フロー調粗目仕上げ	1缶(20kg)	3.0kg/m <sup>2</sup>	33色

## 施工のポイント

### 1. 取り扱い

- 施工時および塗布後の養生時の気温・気象条件に注意して、**降雨・降雪を避け、気温が5℃以下での施工を避けてください。**
- 施工時の気温が35℃以上および湿度が85%以上の場合は、適切な養生を行ってください。
- ベースコートの塗り付け終了後、所定の養生期間を経過し、ベースコートが十分に硬化しているかを確認してください。
- 仕上げに影響をおよぼすような、**下地の不陸、付着物、突起物、塗り残しの有無を確認**してください。
- 納入材料が仕様通りか、ラベル・伝票等で確認してください。材料の色も直接確認してください。
- 他の部位を汚さないように、施工前に必ずマスキング等の養生を行ってください。

▶アドバイス  
表面水分量は8%以下(十分に乾いている状態)が基準です。

▶アドバイス  
一度開封した缶は、できるだけ早く使い切ってください。短期間保存する場合でも、ビニール袋の口を閉じ、缶を密閉して空気に触れないようにしてください。

### 2. 攪拌

- 開缶後、テクスチャードフィニッシュを塗り始める前に、ハンドミキサー等で必ず**均一になるように材料全体を攪拌**してください。

▶アドバイス  
攪拌時間は3分間程度です。攪拌の際は空気を巻き込まないように注意してください。

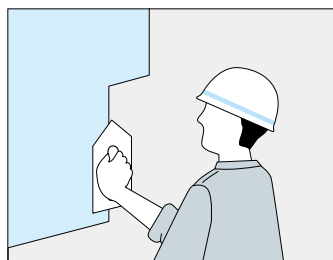
### 3. 塗り付け

- 材料をコテ板に取り分け、**ステンレス製のコテで3mm厚以上均一**になるように塗り伸ばしてください。
- 仕上げ材の塗り付けは、一回で同一面を塗り上げるようにしてください。同じ面で時間を置いて塗り分けると、乾燥してから色や柄にムラが生じる原因となります。時間をあけて塗り継ぎを行う場合でも、各面ごとに区切るようにしてください。
- シーリングを施した部分にテクスチャードフィニッシュを塗り付けた場合、クラックが生じる可能性があります。

▶アドバイス  
既調合の骨材粒度以上の厚みに塗り付けると、次工程の柄が出にくくなります。

▶アドバイス  
鉄製のコテは変色の原因になるので、ステンレス製のものを使用してください。

▶アドバイス  
強く引き伸ばして、下地のベースコート面が透けてしまった場合は、すぐに材料が均一になるように増し塗りをしてください。



●フィニッシュ塗り付け

#### 4. 柄出し

- 柄出しは、塗り付け後に**プラスチック製の柄出しゴテ**または**スチールゴテ**を使用して、追っかけで行います。
- 柄出しは、骨材を均一に転がす要領で、コテを等間隔に回しながら行います。
- 部分的に回し方や大きさ、コテ圧を変えたりすると仕上がりが不均一になり、美しい壁面に仕上がりません。
- 骨材の粒径以上に厚く塗ると、柄が十分に表れなくなります。
- 柄出しは、コテ圧の変化で、できあがりの表情が変わります。少なくとも同一壁面では、同じ人が行うことを推奨します。
- テクスチャーを落ち着いた(おとなしい)感じにしたい場合は、次の5. 押さえの工程を行ってください。

▶アドバイス

コテを時々水洗いしながら行ってください。水洗いをしないでコテを回し続けるとコテに仕上げ材がべと付き、異なった柄になりやすくなります。

▶アドバイス

使用するコテにより、柄の大きさや強さが変わります。同一現場内では、同等のコテを使用してください。

▶アドバイス

大面積を施工する場合や、皮張り(乾燥)の早い天候時はビニールシート付き養生テープで**塗り継ぎ部をラップ養生**し、皮張りを遅らせて塗り継ぎます。

#### 5. 押さえ

- 柄出し終了後、表面の乾燥具合を見ながらステンレス製の角コテを円状に動かし、骨材が転がってきた凸部を平滑になるように、軽く“押さえ”を行ってください。

#### 6. 養生

- 凍結の恐れがある場合は、施工を見合わせるか、ジェットヒーター等を使用してください。

※ ジェットヒーター等を用いる場合は、塗装面に直射・送風しないでください。  
変色・変質の原因となります。

▶アドバイス

一度、凍結すると、硬化不良、剥離、浮きの原因となります。



### 注意事項

- テクスチャードフィニッシュは、乾燥硬化型の仕上げ材です。通常の気候の場合、硬化時間は最低でも24時間以上を必要とします。
- 低温または高湿度の場合は乾燥・硬化に2～3日以上以上の養生を必要とする場合があります。
- 色ムラや変色の原因になりますので、材料を他の容器に移すことはできるだけ避けてください。やむを得ず移す場合は、洗浄されたきれいな蓋付きのポリ容器等を使用して、十分に攪拌し均一な状態にしてから移してください。
- テクスチャードフィニッシュには、他の材料(骨材も含む)を絶対に混ぜないでください。変色および硬化不良や、剥離・膨れ等の原因になります。
- 濡れた下地や塵埃等が付着している下地にシーラーを塗布しないでください。経時的に塗膜のふくれや剥がれを起こすことがあります。
- 仕上げ材を塗り付ける前にシーラー JS-560 (原液) をローラーで全面にムラの無いように塗布(塗布量=150g/m<sup>2</sup>)し、乾燥させてください。
- シーラー塗布後3時間以上養生し、48時間以内にテクスチャードフィニッシュを塗り付けてください。

# フラットフィニッシュ仕上げ

施工前に必ずコンパネ等で試し塗りを行って、仕上がり、乾燥性を確認してください。

## 使用材料

吉野フラットフィニッシュ

種類(テクスチャー)	荷姿	標準塗布量	色数
フラット仕上げ	1缶(20kg)	3.0kg/m <sup>2</sup>	33色

## 施工のポイント

### 1. 取り扱い

- 施工時および塗布後の養生時の気温・気象条件に注意して、**降雨・降雪を避け、気温が5℃以下での施工を避けて**ください。
- 施工時の気温が35℃以上および湿度が85%以上の場合は、適切な養生を行ってください。
- ベースコートの塗り付け終了後、所定の養生期間を経過し、ベースコートが十分に硬化しているかを確認してください。
- 仕上げに影響をおよぼすような、**下地の不陸、付着物、突起物、塗り残しの有無を確認**してください。
- 納入材料が仕様通りか、ラベル・伝票等で確認してください。材料の色も直接確認してください。
- 他の部位を汚さないように、施工前に必ずマスキング等の養生を行ってください。

▶ **アドバイス** 表面水分量は8%以下(十分に乾いている状態)が基準です。

▶ **アドバイス** 一度開封した缶は、できるだけ早く使い切ってください。短期間保存する場合でも、ビニール袋の口を閉じ、缶を密閉して空気に触れないようにしてください。

### 2. 攪拌

- 開缶後、フラットフィニッシュを塗り始める前に、ハンドミキサー等で必ず**均一になるように材料全体を攪拌**してください。

▶ **アドバイス** 攪拌時間は3分間程度です。攪拌の際は空気を巻き込まないように注意してください。

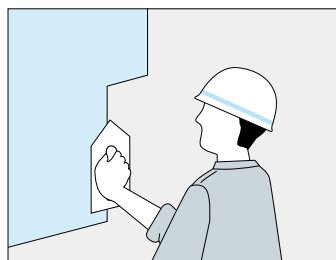
### 3. 塗り付け

- 材料をコテ板に取り分け、**ステンレス製のコテで2mm厚以上に均一**になるように塗り伸ばしてください。
- 仕上げ材の塗り付けは、一回で同一面を塗り上げるようにしてください。同じ面で時間を置いて塗り分けると、乾燥してから色や柄にムラが生じる原因となります。時間をあけて塗り継ぎを行う場合でも、各面ごとに区切るようにしてください。
- シーリングを施した部分にフラットフィニッシュを塗り付けた場合、クラックが生じる可能性があります。

▶ **アドバイス** 既調合の骨材粒度以上の厚みに塗り付けると、コテ波が出やすくなります。

▶ **アドバイス** 強く引き伸ばして、薄く塗り付けると骨材の転がり跡が多くなり、フラット感が損なわれます。

▶ **アドバイス** 鉄製のコテは変色の原因になるので、ステンレス製のものを使用してください。



● フィニッシュ塗り付け



#### 4. 押さえ

- 塗り付け終了後、表面の乾燥具合を見ながらステンレス製の角コテを円状に動かし、コテ波を消すように、軽く“押さえ”を行ってください。

▶ **アドバイス**

大面積を施工する場合や、皮張り(乾燥)の早い天候時はビニールシート付き養生テープで塗り継ぎ部をラップ養生し、皮張りを遅らせて塗り継ぎます。

#### 5. 養生

- 凍結の恐れがある場合は、施工を見合わせるか、ジェットヒーター等を使用してください。

※ ジェットヒーター等を用いる場合は、塗装面に直射・送風しないでください。  
変色・変質の原因となります。

▶ **アドバイス**

一度、凍結すると、硬化不良、剥離、浮きの原因となります。



### 注意事項

- 完全にコテ波を消すことはできません。
- 多少骨材の転がり跡ができます。
- フラットフィニッシュは、乾燥硬化型の仕上げ材です。通常の気候の場合、硬化時間は最低でも 24 時間以上を必要とします。
- 低温または高湿度の場合は乾燥・硬化に 2～3 日以上養生を必要とする場合があります。
- 色ムラや変色の原因になりますので、材料を他の容器に移すことはできるだけ避けてください。やむを得ず移す場合は、洗浄されたきれいな蓋付きのポリ容器等を使用して、十分に攪拌し均一な状態にしてから移してください。
- フラットフィニッシュには、他の材料(骨材も含む)を絶対に混ぜないでください。変色および硬化不良や、剥離・膨れ等の原因になります。
- 濡れた下地や塵埃等が付着している下地にシーラーを塗布しないでください。経時的に塗膜のふくれや剥がれを起こすことがあります。
- 仕上げ材を塗り付ける前にシーラー JS-560 (原液) をローラーで全面にムラの無いように塗布 (塗布量 = 150g/m<sup>2</sup>) し、乾燥させてください。
- シーラー塗布後 3 時間以上養生し、48 時間以内にフラットフィニッシュを塗り付けてください。

## デラクリートの補修

## クラックの種類と分類

- Level.1 仕上材／仕上材のみのクラック
- Level.2 ベースコート／ベースコートまで至っている
- Level.3 デラクリートセメントボード／デラクリートセメントボードまで至っている
- Level.4 躯体の変形／躯体の変形など構造的な原因のもの

## ポイント

## 1. 進行度

- クラック発見から、幅・範囲・長さ・深さなど進行しているか必ず確認してください。
- すぐ補修せずに、許される範囲(期間)で進行の様子を確認してください。

## 2. 深度

- クラックの深さがどこまで至っているか確認してください。
- ヘアクラックを欠き込んで測定する場合は、メッシュが切れているか確認するため、各メッシュを傷つけないように留意してください。

## 3. クラックパターン

- クラックの入り方にパターンがないか確認してください。  
(基礎周りに多い、ベランダのみに入っている、室内は吹き抜けの外壁に入っているなど)
- パターンに起因しそうな建屋の間取りや、基礎のクラック、クラックしている面の壁倍率等、調査してください。

## 4. メッシュの状況

- Level3～4の場合は特に、ガラス繊維テープやスタンダードメッシュ、デラクリートセメントボードのメッシュの状況を必ず調査してください。
- 各メッシュが切れている場合は、Level.4の可能性が高いと考えられます。

## 補修方法

## 1.Level.1～2の場合

- クラック幅～0.3mm:仕上げ材をクラック内に入れるように塗布してください。
- クラックが進行していない事を確認してください。

## 2.Level.3～4の場合

原因を把握したうえで、補修方法を別途相談してください。

<補修例>

- ①クラック周りを皮スキや電動サンダー等で丁寧に研磨またはVカットを入れてください。  
深さについては、切断されていないメッシュ面までとしてください。
- ②ベースコートおよびガラス繊維テープで補強してください。

(1)養生→(2)不陸処理のため再度ベースコートを塗ってください→(3)養生→(4)仕上げ



## 注意事項

- 作業の際には、手袋、長袖、保護眼鏡等を必ず着用してください。
- 補修でも、各作業段階ごとに必ず適切な養生を行ってください。
- 他社の塗り仕上げ、タイル張り仕上げの場合は、他社指定のマニュアルの補修方法に従ってください。

万一、弊社の製品に不具合が生じた場合には、下記の免責事項を踏まえたうえで対応いたします。

## 免責事項

次の各号のいずれかにより不具合が発生したときは、適用を除外します。

1. 当システムの定める設計基準に反して設計がなされた場合
2. 純正部材・部品、または指定部材・部品を使用しなかった場合
3. 外装工事完了後の増改築や補修、または設備機器・看板等の取り付け工事等による場合
4. 施工当時実用化された技術では予測することが不可能な現象による場合
5. 目的用途以外で使用した場合の不具合
6. 振動および荷重条件等が明らかに劣悪な環境条件下での不具合
7. 当システムの定める施工基準に反する施工、その他施工上の瑕疵、または施工者の不法行為、債務不履行等による場合
8. 施工基準に反する保管・取り扱いなど、施工管理が十分になされなかったことによる場合
9. 外装工事以外の工事上の不具合による場合
10. 補修用塗料が使用されている場合(当該使用部分に限る)
11. 施工精度に起因する不具合
12. 本システムが、変質、変形の恐れがある場所および部位に、保管、使用もしくは施工がなされた場合による不具合
13. 建物・躯体の構造および仕様に起因する場合
14. 建物自体の変形や変位による場合
15. 内部結露、または伝い水によって不具合が生じた場合
16. 入居者(管理者を含む)、または第三者による維持管理不行き届き、ならびに故意・過失による場合
17. 伝い水による汚れの付着、釘部や金属製の化粧部材(水切り・出隅等)の錆やもらい錆、カビ、藻類などによる外観上の変化による場合
18. 天災(周りの戸建住宅が過半被害を受ける自然災害や不可抗力)、または地盤・周辺環境・公害などに起因する場合
19. 初期の損傷、または不具合を発見したにもかかわらず、長期間放置したために生じた拡大損害の場合
20. 金属タワシ・金属ブラシなど不適当な器具、および薬品を用いた洗浄、または不適当な高圧洗浄などによる損傷の場合
21. 特殊環境地域(温泉場、焼却炉付近、特殊ガス・熱・酸・アルカリ・塩類を発生する施設や工場、塩害地区、海・湖・河川等の周辺で常時しぶきがかかるような地域、煙塵および金属粉・石粉が堆積する地域)における損傷の場合
22. その他、吉野石膏株式会社の責に帰さない事由による場合

# 下地 / デラクリート工事

システムの構成と製品

禁止事項・注意事項

システムの設計資料

システムの施工

システムの補修

チェックリスト

工事店様名		チェック者		印
建設会社様名		確認者		印

チェック項目	チェック内容	判定	不具合点および改善内容	処理日
工事前	材料確認	各システム材料は指定の品番か		
		各システム材料が必要数量納入されているか		
	仮設の確認	適切な足場が設置されているか		
		水道・電気設備は整備されているか		
	躯体・ 下地精度	建ち ..... 3mm以内かつ高さの1/1000以内		
		通り ..... 下地面で±1mm/2m		
		躯体、基礎部の継ぎ目段差 ..... 1mm以内		
		軒天レベル ..... 2mm以内		
		開口部等の水平レベル ..... 3mm以内		
	躯体・ 下地状況	サッシや見切り等の部材は正しく取り付けられているか		
		ボルトや金物等の出はないか		
		躯体・下地の不陸はないか		
		基準墨は出ているか		
		配管設備等、貫通設備が設置されているか		
	防水シート の施工	柱・間柱または鉄骨胴縁は規定間隔以下か		
		指定の防水紙を使用されているか		
		横張りで下から張られているか		
		重なり代は上下方向100mm以上、左右方向150mm以上確保されているか		
		出隅・入隅は100mm以上双方の壁面に巻き込むように重ね張りしているか		
	通気胴縁 の施工	損傷箇所はないか		
		サッシ廻り等は、適切な防止テープ処理やシーリング処理をされているか		
		13×45mm以上の胴縁が@455mm以下で取り付けられているか		
		ボードジョイント部に幅60mm以上の胴縁が使用されているか		
		胴縁は柱・間柱・梁などの構造材へ確実に留め付けられているか		
		サッシ廻りに胴縁を設けているか		
	鉄骨胴縁 の施工	胴縁材は十分乾燥しているか		
		胴縁下地精度(不陸等)は1mm以内か		
		縦胴縁となっているか		
設計図書の仕様通りの胴縁材を使用しているか				
幅45mm以上の胴縁が規定間隔以下で取り付けられているか				
部材取り付け 備考	ボードジョイント部に幅60mm以上の胴縁が使用されているか			
	C型鋼ダブル等の組み合わせた胴縁材は溶接で一体となっているか			
張り工事	デラクリート セメントボード 張り付け	土台水切りや見切り材等は、基準墨に合わせて取り付けられているか		
		表(印字のある粗い面)が表面になっているか		
		横張り千鳥状となっているか		
		縦ジョイントは、胴縁上でおこなわれているか		
		縦ジョイント部の隙間は3mm程度となっているか		
		横ジョイント部は突き付けを基本とし、隙間は0~3mm程度となっているか		
		ボードの端部が胴縁から浮いている状態でないか		
		開口部廻りは、かぎ張りされているか		
	開口廻りの角部に割れが発生していないか			
	伸縮目地	不陸は1mm以内になっているか		
適切な伸縮目地をとっているか(塗り仕上げ6m、張り仕上げ4.9m以下毎)				
		適切な伸縮目地をとっているか(鉄骨造:各階床部分)		

チェック項目		チェック内容	判定	不具合点および改善内容	処理日
張り工事	スクリュー留め付け	木下地にはウッドスクリュー(黒)を使用しているか			
		鉄骨下地にはスチールスクリュー(黒)を使用しているか			
		ボード1枚あたり25本(縦5本×5列)留め付けているか			
		留め付け間隔(縦方向)@230mm以下となっているか			
		ボード面よりスクリュー頭がもぐり込んでないか			
		ボード端部から15~20mmの位置に留め付けているか			
		スクリュー廻りのヒビ等軽微な損傷は、ベースコートで補修しているか			
	シーリング処理	ボード切断面のほこりは除去されているか			
		指定の材料を使用しているか			
		プライマー処理はしているか			
		必要な箇所にシーリングされているか			
		ボード小口面が隠れるようにシーリングされているか			
		ボードジョイント部にシーリングしていないか			
左官工事	ベースコート混練	炎天下等で保管された高温のベースコートを使用していないか			
		置き水や溜まり水を使用していないか			
		規定の水量で混練しているか			
		混練時間は、ハンドミキサーで3~4分行っているか			
		気温が5℃以下で施工していないか			
	専用役物の取り付け	気温が5℃以下で施工していないか			
		ベースコートで取り付けているか			
		取り付け時、役物のパンチ穴からベースコートのノロが上がってきたか 役物裏面に空気層ができていないか			
	ジョイント補強	気温が5℃以下で施工していないか			
		ボードジョイント部に十分ベースコートを充填しているか			
		ガラス繊維テープ貼りは、ジョイント部に 充填したベースコート可使用時間に行っているか			
		ガラス繊維テープは重ね貼りしていないか			
		ガラス繊維テープにシワや浮きはでないか			
		養生時に凍結しないようにしているか			
	スタンダードメッシュ伏せ込み 《鉄骨造》	気温が5℃以下で施工していないか			
		ジョイント補強部は十分に硬化しているか			
		降雨直後の施工で、ボードが乾いているか			
		ドライアウトをおこしていないか			
		ベースコート下塗り、スタンダードメッシュ伏せ込み、 上塗りまでベースコート可使用時間内で行っているか			
		スタンダードメッシュの四方は、5cm以上重ねているか			
		仕上げ材に適したベースコート仕上げ面に仕上がっているか			
		養生時に凍結しないようにしているか			
		仕上げ工事まで十分な養生期間をとったか			
	ベースコート塗り 《木造》	気温が5℃以下で施工していないか			
		ジョイント補強部は十分に硬化しているか			
		降雨直後の施工で、ボードが乾いているか			
		ドライアウトをおこしていないか			
		仕上げ材に適したベースコート仕上げ面に仕上がっているか			
		養生時に凍結しないようにしているか			
		仕上げ工事まで十分な養生期間をとったか			

# 仕上げ／タイル・擬石張り工事

工事店様名	チェック者	印
建設会社様名	確認者	印

チェック項目	チェック内容	判定	不具合点および改善内容	処理日	
工事前	材料確認	各材料は指定の品番か			
		各材料が必要数量納入されているか			
	仮設の確認	適切な足場が設置されているか			
		水道・電気設備は整っているか			
	シーリング処理	デラクリート切断面のほこりは除去されているか			
		プライマー処理はされているか			
		必要な箇所にシーリングがされているか			
		土台水切りと下地材最下端との取り合いにシーリングしていないか			
	備考				
工事中	ベースコート面の確認	ベースコートは充分乾燥しているか			
		ベースコート表面に接着の阻害となる状況はないか			
		必要に応じて接着剤による不陸調整が行われているか			
	タイル・擬石張り工事	他部材の養生はされているか			
		仕上材張りに適した気象条件か(温度、天候)			
		接着剤の可使用時間は所定の時間内か(各メーカーの仕様による)			
		目地詰め有り・無しに応じた適切な接着剤の塗布方法、塗布量となっているか			
		接着剤の付着状況のチェックはされているか			
		タイル・擬石の割り付けは仕様通りか			
		仕上り精度は良好か			
	目地部の仕上りは良好か				
	目地詰め	目地残りはないか、必要に応じて目地押さえはされているか			
	洗い	必要に応じて洗い・酸洗いはされているか			
化粧シーリング	シーリング材は指定の材料・色を使用しているか				
備考					
工事後	納まりの確認	全体的な仕上げに不具合はないか			
	現場確認	残材処理・現場清掃はされているか			
	仕上がりチェック	仕上り状況についてチェックリストを使用して確認しているか			
備考					

# 仕上げ／塗装工事

工事店様名		チェック者	印
建設会社様名		確認者	印

チェック項目		チェック内容	判定	不具合点および改善内容	処理日
工事前	材料確認	各システム材料は指定の品番か			
		各システム材料が必要数量納入されているか			
	仮設の確認	適切な足場が設置されているか			
		水道・電気設備は整備されているか			
	シーリング処理	デラクリート切断面の埃は除去されているか			
		プライマー処理はされているか			
		必要な箇所にシーリングがされているか			
備考	土台水切りと下地材最下端との取り合いにシーリングしていないか				
工事中	ベースコート面の確認	ベースコートは充分乾燥しているか			
		ベースコート表面に割れ及び密着の阻害となる状況はないか			
	塗装工事	必要に応じてベースコートで不陸調整が行われているか			
		タイル張り用の接着剤が極端にはみ出していないか			
		他部材の養生はされているか			
		塗装工事に適した気象条件か(温度・天候)			
		仕上げ別に「施工の手引き」がそろえられているか(他社仕上げ)			
		「施工の手引き」にそった塗布方法、塗布量となっているか			
		仕上がり精度は良好か			
	備考	伸縮目地にフィニッシュを塗布していないか			
工事後	納まり確認	全体的な仕上げに不具合はないか			
	現場確認	残材処理・現場清掃はされているか			
	仕上がりチェック	仕上がり状況についてチェックリストを使用して確認しているか			
備考					

# 曲面壁工事

システムの構成と製品

禁止事項・注意事項

システムの設計資料

システムの施工

システムの補修

チェックリスト

工事店様名		チェック者	印
建設会社様名		確認者	印

チェック項目	チェック内容	判定	不具合点および改善内容	処理日
工事前	材料確認	各システム材料は指定の品番か		
		各システム材料が必要数量納入されているか		
	仮設の確認	適切な足場が設置されているか		
		水道・電気設備は整備されているか		
	躯体・ 下地精度	建ち ..... 3mm以内かつ高さの1/1000以内		
		通り ..... 下地面で±1mm/2m		
		躯体、基礎部の継ぎ目段差 ..... 1mm以内		
		軒天レベル ..... 2mm以内		
		開口部等の水平レベル ..... 3mm以内		
	躯体・ 下地状況	サッシや見切り等の部材は正しく取り付けられているか		
		ボルトや金物等の出はないか		
		躯体・下地の不陸はないか		
		基準墨は出ているか		
		配管設備等、貫通設備が設置されているか		
		柱・間柱または鉄骨胴縁は規定間隔以下か		
	防水シート の施工	指定の防水紙を使用されているか		
		横張りで下から張られているか		
		重なり代は上下方向100mm以上、左右方向150mm以上確保されているか		
		出隅・入隅は100mm以上双方の壁面に巻き込むように重ね張りしているか		
		損傷箇所はないか		
	通気胴縁 の施工	サッシ廻り等は、適切な防止テープ処理やシーリング処理をされているか		
		13×45mm以上の胴縁が指定ピッチ以下で取り付けられているか		
		ボードジョイント部に幅60mm以上の胴縁が使用されているか		
		胴縁は柱・間柱・梁などの構造材へ確実に留め付けられているか		
		サッシ廻りに胴縁を設けているか		
		胴縁材は十分乾燥しているか		
	鉄骨胴縁 の施工	胴縁下地精度(不陸等)は1mm以内か		
縦胴縁となっているか				
設計図書の仕様通りの胴縁材を使用しているか				
幅45mm以上の胴縁が規定間隔以下で取り付けられているか				
ボードジョイント部に幅60mm以上の胴縁が使用されているか				
部材取り付け 割り付け	C型鋼ダブル等の組み合わせた胴縁材は溶接で一体となっているか			
	土台水切りや見切り材等は、基準墨に合わせて取り付けられているか			
張り工事	ボードの曲率半径はR≥2400mm以上か			
	ボードの張り付け縦横比は1:2(長尺材)に割り付けているか			
	デラクリート セメントボード 張り付け	表(印字のある粗い面)が表面になっているか		
		ボードの切断前に、軽くたわませているか		
		横張り千鳥状となっているか		
		縦ジョイントは、胴縁上でおこなわれているか		
		ジョイント部の隙間は3mm程度となっているか		
		ボードは支部が胴縁から浮いていないか		
開口部廻りは、かぎ張りされているか				
不陸は1mm以内になっているか				
伸縮目地	適切な伸縮目地をとっているか(塗り仕上げ6m、張り仕上げ4.9m以下毎)			



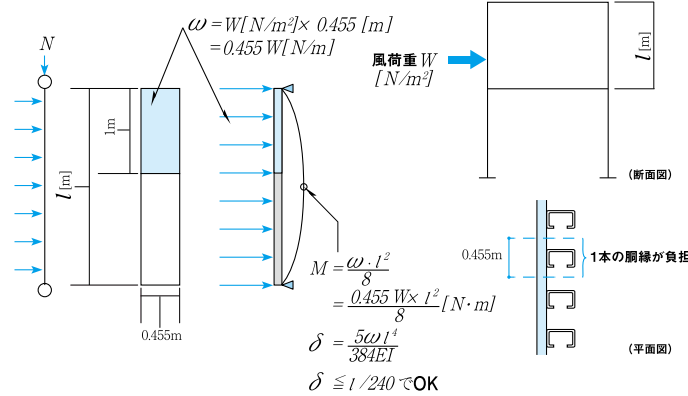
# 鉄骨下地胴縁

## 鉄骨下地胴縁の設計例

### 風荷重曲げモーメントと壁重量による軸力を受ける鋼材の設計例

$$\sigma_b = \frac{M}{Z} \quad \sigma_c = \frac{N}{A} \quad \frac{\sigma_c}{f_c} + \frac{\sigma_b}{f_b} \leq 1 \text{ ならばOK}$$

#### 1. 風荷重



#### 記号

- $A$  : 胴縁の断面積
- $E$  : ヤング係数
- $f_b$  : 許容曲げ応力度
- $f_c$  : 許容圧縮応力度
- $I$  : 胴縁の断面二次モーメント
- $iy$  : 断面二次半径
- $l$  : 胴縁の支点間長さ
- $M$  : 風荷重によるモーメント
- $N$  : 壁重量
- $W$  : 風荷重
- $\omega$  : 単位風圧力
- $Z$  : 胴縁の断面係数
- $\delta$  : たわみ
- $\lambda$  : 圧縮材の細長比
- $\sigma_b$  : 曲げ応力度
- $\sigma_c$  : 圧縮応力度

#### 2. 壁重量について

$$N [N] = \text{胴縁の自重} [N] + \text{デラクリートの自重} [N] + \text{仕上げ材の自重} [N]$$

胴縁の自重  $[N] = \text{胴縁の単位質量} [N/m] \times l [m]$   
 デラクリートの自重  $[N] = 225 [N/m^2] \times l [m] \times 0.455 [m]$   
 仕上げ材の自重  $[N] = \text{仕上げ材の単位質量} [N/m^2] \times l [m] \times 0.455 [m]$   
(※1張り仕上げの場合は張り付け用材料を含む)

#### 3. 軸力と曲げを同時に受ける胴縁の検討

$l [cm], iy [cm], A [cm^2], Z [cm^3]$   
 箱型断面なので  $f_b = 1.6 \times 10^4 [N/cm^2]$  (長期)  
 $\lambda = \frac{l}{iy} \rightarrow$  計算図表より  $f_c$  (長期) を求める  
 $\sigma_b = \frac{M}{Z} [N/cm^2]$   
 $\sigma_c = \frac{N}{A} [N/cm^2]$   
 $\frac{\sigma_c}{f_c} + \frac{\sigma_b}{f_b} \leq 1$  の確認  $\rightarrow \frac{\sigma_c}{f_c \times 1.5 \text{ (短期)}} + \frac{\sigma_b}{f_b \times 1.5 \text{ (短期)}} \leq 1$

※2 鋼構造設計規準～SI単位版(日本建築学会)  
 $f = 235 N/mm^2$  鋼材の長期応力に対する許容圧縮応力度  $f_c (N/mm^2)$  より

#### 4. 幅厚比の検討

$d = H - 2t$   
 フランジ  $\frac{b}{t} < 48$  でOK  
 ウェブ  $\frac{d}{t} < 48$  でOK

# DURACRETE

CEMENT BOARD SYSTEMS

デラクリート セメントボードシステム

ISO 登録

■ ISO9001 ■ 技術研究所

【工場】東京・草加・千葉第一・千葉第二・千葉第三・三河・今治・北九州

北海道吉野・日東石膏ボード・小名浜吉野・新潟吉野・ジブテック(秋田・小名浜・高砂)

■ ISO14001 ■ 【工場】三河・今治・北九州・日東石膏ボード



安全で快適な住空間を創る  
**YOSHINO**  
吉野石膏株式会社

本社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル  
ホームページ(URL) <http://www.yoshino-gypsum.com/>

札幌支店	☎011(221)6465	旭川営業所	☎0166(47)3680	長野営業所	☎026(228)3091
仙台支店	022(262)4421	青森営業所	017(777)0261	相模原営業所	042(752)1951
新潟支店	025(245)7681	盛岡営業所	019(624)0877	静岡営業所	054(253)5101
北関東支店	048(643)6151	郡山営業所	024(934)9310	堺営業所	072(232)0662
東京支店	03(3216)1717	金沢営業所	076(233)5275	神戸営業所	078(302)3062
横浜支店	045(651)3541	宇都宮営業所	028(643)6066	高松営業所	087(834)2001
名古屋支店	052(223)2661	高崎営業所	027(321)6163	岡山営業所	086(226)4500
大阪支店	06(6449)1000	千葉営業所	043(246)7011	松江営業所	0852(37)1646
広島支店	082(248)0494	柏営業所	04(7144)1611	北九州営業所	093(521)5018
福岡支店	092(451)5315	立川営業所	042(528)0581	鹿児島営業所	099(225)1015

●詳細についてのお問合せは セラミック営業部 ☎03(3216)2670 FAX 03(3216)2677